



# 画期的な水稲新品種「中部125号」を開発

- “いもち病抵抗性遺伝子”を“食味を損ねる遺伝子”と切り離して導入することに世界で初めて成功 -

## 開発の背景・ニーズ

水稲栽培に重大な影響を与えているいもち病に強い品種の開発を昭和8年から続けてきましたが、これまではいもち病には強いがあまりおいしくない陸稲と、おいしいがいもち病に弱い水稲を交配しても、いもち病に強くおいしい個体を選抜することができませんでした。

このため、遺伝子を正確に区別できるゲノム育種法を使って、いもち病に強くおいしい水稲の品種開発に取り組みました。

## 成果の内容

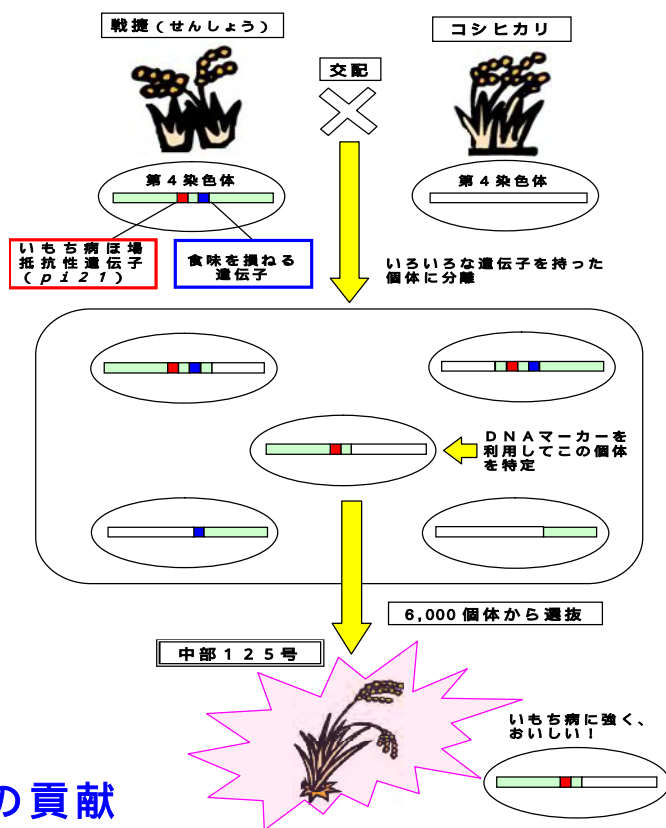
独立行政法人農業生物資源研究所及び独立行政法人農研機構作物研究所と共同で研究を進め、陸稲「戦捷(せんしょう)」が持ついもち病圃場抵抗性遺伝子(*pi21*)を特定し、その遺伝子を持つ品種「稻系IL946」と水稲「コシヒカリ」を交配してできた後代6,000個体から、*pi21*だけを持ち、食味を損ねる遺伝子は持たない個体を選抜することに、世界で初めて成功しました。

この個体をさらに改良し、いもち病に極めて強く、「コシヒカリ」と同等においしい「中部125号」を開発し、平成21年8月に品種登録出願しました。



いもち病抵抗性試験の状況  
(左:「コシヒカリ」、右:「中部125号」)  
【左の「コシヒカリ」はいもち病に弱い、右の「中部125号」はいもち病に極めて強い】

### 「中部125号」の開発



## 愛知県農業への貢献

極めて強いいもち病抵抗性と良食味特性を併せ持つ水稲品種であり、交配用の母本的価値は極めて高いと考えられ、今後の水稲育種においても広く利用されることが期待されます。